

ユネスコスクールにおけるESD活動の現状と展望 —全国と愛知との比較—

磯部 征尊* 宮川 秀俊** ***

Present Condition and Perspective of Education for Sustainable Development on UNESCO-Schools

—Comparison between Whole Japan and Aichi Prefecture—

ISOBE Masataka MIYAKAWA Hidetoshi

要 約

2014年愛知・名古屋で「国連持続可能な開発のための教育の10年」を取りまとめる世界会議が開催され、社会的な気運が高まっている。そこで本研究では、ユネスコスクールにおけるESD活動の現状を把握し、各学校のユネスコスクールの理念に基づいた展開と充実への今後の支援に向けた方策を検討することを目的とした。その結果、ユネスコスクール担当教員の担当教科について、全国と愛知の教科は概ね一致するが、全国では理科の担当教員が多いのに対し、愛知は社会科が最も多いことが分かった。また、ユネスコスクールに加盟するメリットとしては、全国では「地域の連携が強化されたこと」であり、愛知では「教員の意識向上」が最も多かった。

キーワード：ユネスコスクール、ESD活動、技術科教育、安全衛生教育、全国

1. はじめに

2014年愛知・名古屋で「国連持続可能な開発のための教育の10年（以下、DESD: Decade of Education for Sustainable Development）」を取りまとめる世界会議が開催され、社会的な気運が高まっている¹⁾。宮川ら（2015）²⁾は、愛知県内を対象としたESD活動に関するアンケートを実施した。そこでは、ESD活動における安全衛生教育、特に、ESD活動に関する技術科教育の研究は、ほとんど行われていない現状を報告した。一方、愛知県内の現状が全国的に共通しているかどうかは、管見の限りないようである。そこで、社会的な気運が高まる

ESD活動に関する教育活動を全国的に調べるために、本研究では、ユネスコスクールにおけるESD活動の現状を全国的に把握し、各学校のユネスコスクールの理念に基づいた展開と充実への今後の支援に向けた方策を検討することを目的とする。ここでは特に、愛知を除く全国と愛知県のESD活動の比較を行うこととした。

2. 研究方法

本研究では、ユネスコスクールにおける教育内容、方法、成果・評価、今後の課題、安全衛生について把握するために、全国705校のすべてのユネスコスクール（2014年現在）にアンケート用紙を送付し、調査を行った。調査項目の設定意図は、ESD活動の取り組み状況および成果と課題等を把握すること

* 愛知教育大学

** 中部大学現代教育学部現代教育学科

*** 中部大学教育実習センター

を念頭に作成した。調査期間は、2014年8月から9月にかけての約1か月間である。そこから得られた資料より、全国のユネスコスクールのESD活動を愛知と比較し、これからのユネスコスクールの使命に向けた、課題の発見と課題解決に向けて考究する。

3. 研究結果

全国のユネスコスクール705校にアンケート調査用紙を配布したところ、674校から返信があった。表1に、「アンケートの有効回答件数(以下、回答数)」の内訳を示す。

表1に示す294校について「ユネスコスクール加盟年度」を質問したところ、愛知以外の全国のユネスコスクール（以下、全国）は2008年以降から加盟数は急激に増加しており、特に2012年は74件と

非常に多くの学校が加盟した（図1）。

一方、愛知では2012年から加盟校が急増している。その背景には、DESDが2014年で一区切りとなると共に、加盟校を大幅に増やす普及活動が展開されたことが考えられる³⁾。

次に、「ユネスコスクールに加盟した理由」について質問したところ、289校より合計で715件の回答を得た（表2）。

全国・愛知ともに「学校活動でESD活動を役立てるため」が176件で最も多いという結果が得られた。次に多かった加盟理由は、「ユネスコスクールの理念に共感したため」が170件であった。なお、ユネスコスクールの理念は、ユネスコ憲章を基にしており、教育の自由や機会均等をめざしている。また、「ESD活動を行う時間・教科」のアンケート結果（複数回答）については、合計で1115件の回答が得られた（図2）。

同図より、全国と愛知は、「総合的な学習の時間」で行う学校が最も多く、238件であった。このことは、日本ユネスコ国内委員会（2012）⁴⁾の「総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な指導計画を立てる」と一致する傾向と言える。技術・家庭科技

表1 アンケートの回答数

校種	県名	全国 (件)	愛知 (件)	計 (件)
幼稚園		11	0	11
小学校		155	19	174
中学校		63	8	71
高等学校		41	4	45
中高一貫校		16	0	16
大学		3	0	3
その他		5	0	5
計		294	31	325

※表中の回答数は、有効回答数を意味する。

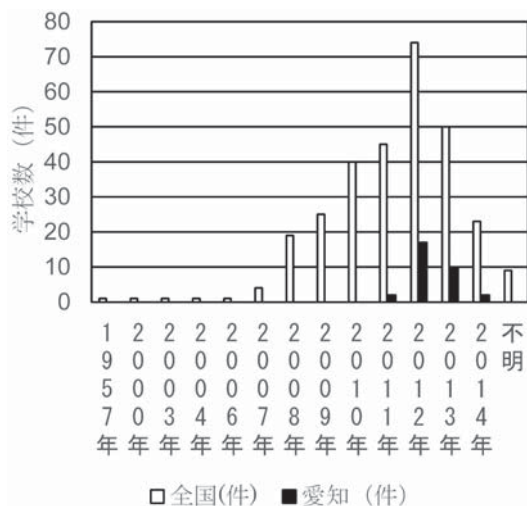


図1 ユネスコスクール加盟年度

表2 ユネスコスクールに加盟した理由

項目	県名	全国 (件)	愛知 (件)	計 (件)
学校活動でESD活動を役立てるため		176	22	198
ユネスコスクールの理念に共感したため		170	11	181
地域との連携を深めるため		152	7	159
学校間での交流を行うため		60	7	67
他校(者)に勧められたため		51	7	58
教職員の教育意識向上のため		39	8	47
世界中のユネスコスクールと情報共有するため		37	3	40
その他		25	1	26
無記入		5	0	5
計		715	66	781

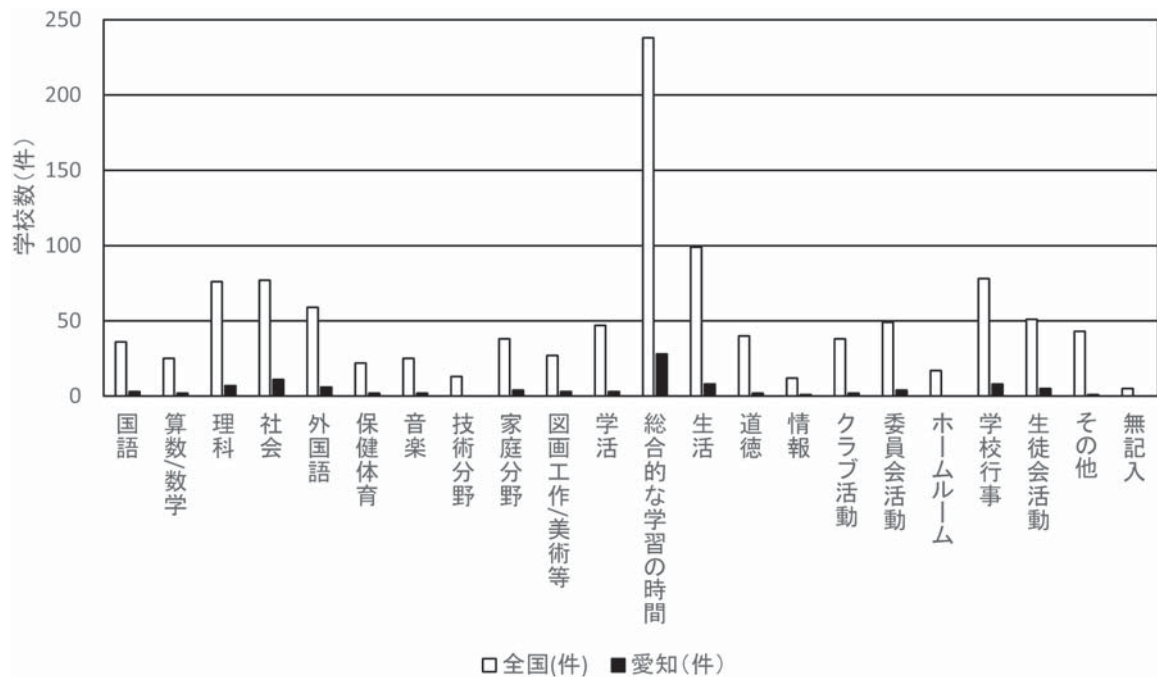


図2 ESD活動を行う時間・教科

術分野の授業ではESD活動が、全国で13校行われているのに対し、愛知県はなかった。上記に関連して、「ユネスコスクールを実施する教員の担当教科」について質問したところ、全国と愛知は理科、社会科の担当教員が多いという点で類似した結果になった（表3）。

相違点として、全国では外国語担当教員が3番目に多いが、愛知は少ない結果であった。また、全国では全教科で担当しているという回答も多く見られた。

2008年版中学校学習指導要領技術・家庭編（技術分野）⁵⁾に持続発展的な視野を取り入れた内容が追加されているものの、全国で技術を担当する教員は7人、愛知では0という結果であった。

ユネスコスクールが設定する「ESD活動のテーマ」（複数回答可）について質問したところ、合計720件の回答を得たが、その3割以上が「環境」に関する回答であるという結果が得られた（図3）。

同図より、全国と愛知は類似した結果であった。具体的には、いずれも「環境」が最も多く、次に「国際理解」、「世界遺産と地域の文化財」が続く。それに対して、「安全衛生」や「気候変動」は回答数が少なかった。

ユネスコスクールで実際に行われている「ESD活動の内容」について質問したところ、551件の回答が得られた（図4）。

共通点は、全国も愛知県も「環境」や「その他」に関する内容が最も多いことが分かった。

表3 ユネスコスクールを実施する教員の担当教科

項目 教科名	全国 (件)	愛知 (件)	計 (件)
国語	13	0	13
算数 / 数学	14	2	16
理科	36	6	42
社会	21	13	34
外国語	34	1	35
保健体育	14	0	14
音楽	4	0	4
技術分野	7	0	7
家庭分野	11	0	11
図画工作 / 美術等	6	0	6
総合的な 学習の時間	7	0	7
生活	2	0	2
情報	6	0	6
担当なし	4	1	5
全教科	31	0	31
その他	39	0	39
無記入	77	9	86
計	326	32	358

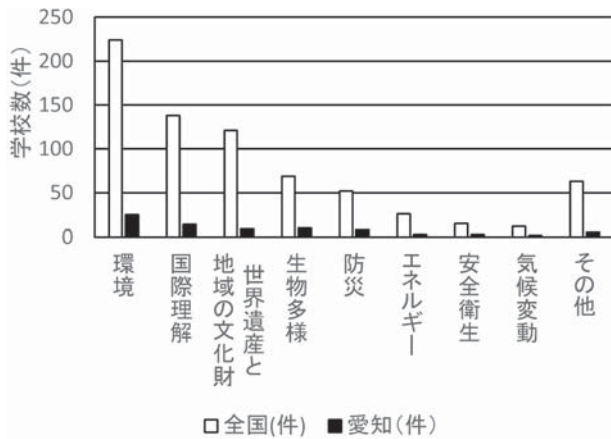


図3 ESD活動のテーマ

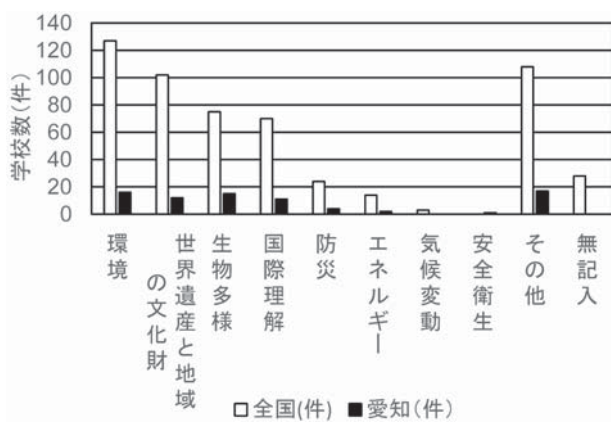


図4 ESD活動の内容

「ESD活動を通して育みたい力」(複数回答可)について質問したところ、合計で1,658件の回答が得られた(表4)。

同表の各回答項目は、「公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(以下、ACCU):ユネスコスクール地域交流会in広島 発表事例集」⁶⁾に記された、「生徒に身に付けさせたい力」を参考に設定した。既報²⁾の愛知県の結果と同様、全体的に、「思考力」「表現力」「判断力」「多面的にものを見る力」が多い傾向にあることが分かった。また、愛知と全国はともに「判断力」は比較的多かったが、「自律心」と「責任意識」は判断力と比較して、少ない結果であった。相違点としては、「自尊心」や「国際競争力」が愛知県内ではほとんど着目されていないことである。続いて、「ESD活動を通して新たに見つけた(作った)教材」について質問したところ、教材を見つけた(作った)と回答した学校が全国で122校、愛知で13校という結果が得られた。全国・愛知ともに全体の4割近くの学校がESD活動を通し

表4 ESD活動を通して育みたい力

項目	県名	全国(件)	愛知(件)	計(件)
思考力		216	20	236
表現力		192	18	210
判断力		167	17	184
多面的にものを見る力		160	18	178
思いやり		137	9	146
協調性		123	13	136
自然尊重の精神		99	6	105
積極性		91	9	100
自律心		80	6	86
責任意識		75	7	82
自尊心		71	2	73
情報収集能力		69	7	76
リーダーシップ		52	5	57
批判力		48	6	54
分析能力		45	5	50
国際競争力		11	0	11
その他		23	2	25
無記入		1	0	1
計		1,660	150	1,810

て、教材を新たに見出していた。そこで、ESD活動を通して教材を見つけた(作った)と回答した学校に対し、「ESD活動を通して新たに見つけた(作った)教材」の詳細を質問した(表5)。

同表より、全国と愛知の傾向は概ね一致していた。特に、地域関連の教材が愛知・全国の合計106件で、回答が得られた166件の6割以上であるという結果が得られた。

上記に関連して、「ユネスコが提供する教材の使用」についての結果、これらの教材を学校で使用していると回答した学校は全国が41件で、愛知は3件であり、両者ともに全体の約1割であった。つまり、既報²⁾の指摘と同様、全国的にも、これらの教材は、学校教育の場ではあまり実用化されていないことが分かった。

「教師生徒のESD活動への積極性」について質問したところ、325校から回答が得られた。「非常に積極的」、あるいは「積極的」と回答した学校が全

表5 ESD活動を通して新たに見つけた（作った）教材

項目	県名	全国 (件)	愛知 (件)	計 (件)
地域の自然環境		35	2	37
地域の文化財		18	2	20
国外交流		17	0	17
地域産業		15	2	17
地域そのもの		14	2	16
地域の防災		11	2	13
地域の人材		8	2	10
エネルギー		7	0	7
地域の食		4	0	4
資料		4	0	4
学校農園		3	2	5
キャリア教育		2	0	2
ものづくり		2	0	2
地域施設		1	0	1
その他		25	4	29
計		166	18	184

国では189校、愛知では20校であった。全体の6割以上の学校は積極的に活動を行っていたものの、全国の96校と愛知の11校が「どちらでもない」、「やや消極的」、または「消極的」と回答していた。続いて、「ユネスコスクールがESD活動を行う際の学校外との連携」について質問したところ、ESD活動の際に連携する機関があると回答した学校は、全国が255校に対し、愛知は26校という結果が得られた。すなわち、両者ともに全体の8割以上の学校が他の機関と連携しながら活動を進めていた。これらの回答より、ESD活動は、他の機関と連携しながら進めている場合が多いことが分かる。また、上記の質問で連携していると答えた学校に対し、「学校外の連携する機関」を質問したところ、全国と愛知は概ね同様の結果であった（表6）。

同表より、全国では「地域住民」、「地域施設」の回答数が特に多かった。しかし、愛知と全国ともに主な連携先は、地域に住む人々で構成された機関であった。「ESDファシリテーター」の回答は、全国でわずか9件であった。既報²⁾においても、ESDファシリテーターの存在の必要性を指摘したが、本件は、愛知県内だけでなく、全国的にも課題であることが

表6 学校外の連携する機関

項目	県名	全国 (件)	愛知 (件)	計 (件)
地域住民		173	17	190
地域施設		102	7	109
大学		60	3	63
国内の他校		59	3	62
保護者		58	7	65
外部の専門家		51	2	53
その他		51	5	56
外国の学校		34	3	37
企業		33	5	38
ESDファシリテーター		9	3	12
無記入		3	0	3
計		633	55	688

分かった。

また、ユネスコスクールの「学校外の評価を受ける機関」について質問したところ、学校外から評価を受けていると回答した学校は、全国では97校、愛知は14校であった。全体の数と比較し、愛知は約半数が学校外から評価を受けていることになり、全国の約3割より高い比率であった。学校外からの評価を受けていると回答した学校に対し、具体的な「校外の評価を受ける機関」について質問したところ、評価は全国・愛知ともに「保護者」から受けていると回答した学校が最も多かった（表7）。

同表より、他には「地域」、「教育委員会」、「PTA」が多かったことから、全国・愛知は、地域から構成された機関から評価を受ける傾向が高いということが分かった。

「ユネスコスクールに加盟するメリット」について質問したところ、1,018件の回答が得られた（表8）。

同表より、全国では「地域との連携強化」をあげる学校が最も多かった。この点は、「ESD活動に取り組む学校が増えている（宮川ら、2015：p. 60）」²⁾傾向と同様の結果であったと言える。一方、愛知では「教員の意識向上」が最も多かったものの、全体としては概ね一致している。

「今後解決すべきESD活動の課題」の結果（複数回答）について質問したところ、全国としては「教員間の温度差」の回答が、898件中の128件で、全

表7 学校外の評価を受ける機関

項目	県名	全国 (件)	愛知 (件)	計 (件)
保護者		59	7	66
地域		55	3	58
教育委員会		33	2	35
PTA		20	3	23
他の学校		7	0	7
市町村		6	0	6
同窓会		3	0	3
個人		2	1	3
その他		27	7	34
無記入		9	0	9
計		221	23	244

表8 ユネスコスクールに加盟するメリット

項目	県名	全国 (件)	愛知 (件)	計 (件)
地域との連携強化		193	13	206
体験的活動の拡充		143	9	152
教員の意識向上		99	14	113
教育の質の向上		94	8	102
児童・生徒の意欲や学力 の向上		86	9	95
ワークショップ、研修会 への参加		71	6	77
他のユネスコスクールや 大学、NPO など関連機関 との交流・連携		62	6	68
ESD 活動のための教材、 情報の提供		50	5	55
海外との交流増加		44	3	47
世界の教育事情、国連機 関の活動の把握		40	1	41
学校全体にまとまりがで きた		24	4	28
支援制度の活用		16	2	18
その他		5	2	7
無記入		9	0	9
計		936	82	1,018

体の2割と最も多い結果であった。一方、愛知では「活動時間がとれない」ことが最も多くあげられた(表9)。

表9 今後解決すべき ESD 活動の課題

項目	県名	全国 (件)	愛知 (件)	計 (件)
教員間の温度差		128	7	135
活動に係る資金		101	9	110
ESD の意義や取り組みへ の分かりにくさ		96	9	105
活動の継続		90	6	96
活動時間が取れない		88	13	101
評価の視点が曖昧		73	4	77
校内組織の整備		71	2	73
他校との交流の在り方		67	4	71
教員の研修		61	5	66
国外との交流が困難		41	1	42
活動のビジョンが不明瞭		31	2	33
活動への保護者等からの 理解		17	3	20
その他		24	0	24
無記入		10	0	10
計		898	65	963

同表より、全国と愛知に共通していた点は、活動資金に関する課題や、活動時間に関する課題であった。時間や資金に関する課題解決策を検討することは、各学校のユネスコスクールの理念に基づいた展開と充実への今後の支援につながると考える。

ユネスコスクールのESD活動における安全衛生教育の実態については、以下のようであった。

表10 具体的な安全衛生教育活動

項目	全国等	全国 (件)	愛知 (件)	計 (件)
防災		10	1	11
活動に関する安全		6	0	6
交通安全		4	0	4
食の安全		3	1	4
救命救急		3	1	4
手洗い・うがい		2	0	2
川の安全		2	0	2
その他		6	1	7
無記入		2	0	2
計		38	4	42

まず、「安全衛生に関する教育をESD活動の中に取り入れているか」と質問したところ、全国では38校、愛知では4校で取り入れられているという結果が得られた。ESD活動において安全衛生を取り扱う学校は極めて少なく、回答を得た学校のうち、両者ともに約1割という結果であった。この結果より、愛知県と同様、安全衛生教育がESD活動内で十分に行われていないことが分かる。ESD活動の中で安全衛生教育を取り入れていると回答した学校に対し、「具体的な安全衛生教育活動」について質問したところ、主に安全指導教育をESD活動内で行っていることが分かった。特に「防災」は愛知でも行われているもので、全国的にも多く注目されていた。

以上の点を踏まえると、子供が安心・安全に学校に通うことができ、安全衛生教育を学ぶ機会を増やすためには、大学と県教委、市教委間が連携・協働した各学校へのサポート体制の構築が、最善の方策の一つと言える。具体的には、活動資金をユネスコスクールに提供したり、ESD活動の意義や取り組みについての共通理解を図る研修会を行ったりする。また、各学校の管理職においては、校時表を工夫し、活動時間を確保したり、校内研修の機会を通じて教員間の温度差を埋めたりするカリキュラム・マネジメントが必要である。

4. 考察とまとめ

今回の調査により、愛知と全国では以下のような類似点が明らかになった。

- ・ESD活動は主に総合的な学習の時間で行うことが多いものの、多様な教科内に取り入れる学校も多数存在する。
- ・ESD活動のテーマとして、環境について行っている学校が最も多い。
- ・学校外との連携や評価は、主に地域と行っている。
- ・生徒は比較的積極的にESD活動に参加している。
- 相違点としては、以下の点があげられる。
- ・ユネスコスクール担当教員の担当教科について、全国と愛知の教科は概ね一致するが、全国では理

科の担当教員が多いのに対し、愛知は社会科が最も多い。

- ・ユネスコスクールに加盟するメリットとしては、全国では地域の連携が強化されたことについてであり、愛知では「教員の意識向上」が最も多かった。

今後の課題として、全国では教員間の温度差を課題としており、愛知では時間や資金の不足をあげている。そのため、今後の支援に向けた方策は、「大学と県教委、市教委間が連携した各学校へのサポート体制の構築」と、「各学校の管理職が中心となったカリキュラム・マネジメント」が重要なポイントである。

謝辞

本研究を遂行するにあたり、元愛知教育大学大学院教育学研究科院生増田恵梨奈氏、アンケート調査にご協力いただいたユネスコスクールならびに担当の先生方に厚くお礼を申し上げます。

註および参考文献

- 1) 「国連持続可能な開発のための教育の10年」関係省庁連絡会議：国連持続可能な開発のための教育の10年（2005～2014年）ジャパンレポート（2014）
- 2) 宮川秀俊・磯部征尊・増田恵梨奈：ユネスコスクールにおけるESD活動の現状と展望、評価について-愛知県の場合-、技術科教育の研究、第20巻（2015）
- 3) 川端達夫：第1回ユネスコ・スクール全国大会持続発展教育（ESD）研究大会抄録集、NPO法人日本持続発展教育推進フォーラム、p.2（2009）
- 4) 日本ユネスコ国内委員会：ユネスコスクールと持続発展教育（ESD）、文部科学省国際統括官付（日本ユネスコ国内委員会事務局）（2012）
- 5) 文部科学省：中学校学習指導要領解説技術・家庭編、教育図書（2008）
- 6) 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）：文部科学省委託事業平成25年度日本/ユネスコパートナーシップ事業 ユネスコスクール地域交流会in広島 発表事例集 学校&みんなのESDプロジェクトひろがりつなげるESD実践事例、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター、pp.1-101（2014）

受付日 2018年3月15日

受理日 2018年4月26日

Abstract

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization (UNESCO) world conference for Education for Sustainable Development (ESD) was held in Aichi/Nagoya region in Japan from November 10 to 12, 2014. It has been reflected back on the achievements of “UN’s ESD activities on ten years” and discussed in the strategy since 2014. It is very important to develop ESD for a sustainable society.

The purpose of this study is to compare contents of ESD-based UNESCO schools on the Aichi/Nagoya prefecture and other prefectures in Japan using 27 questionnaires in the category 5 contents, such as “Educational (Learning) Contents,” “Educational (Learning) Methods,” “Achievements (Evaluation),” “Future Subjects” and “Safety and Health Education” and explore strategies to support the UNESCO schools. Based on the result of this study, it also became clear some issues of incorporating technology education and safety and health education in ESD activities.